

学習したことを確かめよう

年 組 番 名前

一 次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の①から③の熟語を、「ア 重箱読み」と「イ 湯桶読み」に分け、それぞれ記号を答えなさい。

① 幕内 () ② 台所 () ③ 手本 ()

(2) 次の①から③の熟語の熟字訓を書きなさい。

① 今朝 () ② セタ () ③ 小豆 ()

二 次のアからカの言葉を「和語」「漢語」「外来語」「混種語」に分け、それぞれ記号で答えなさい。

ア てんぷら イ メディア ウ 言葉 エ ぼく オ 花火大会 カ 歩く

和語 () 漢語 () 外来語 () 混種語 ()

三 次の(1)から(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、二通りに解釈することができます。それぞれの解釈がわかるように、「【】」の条件にしたがって、読点(、)を打ちなさい。

私は 静かに 眠って いる 妹を 見つめた。

① 私は 静かに 眠って いる 妹を 見つめた。【私が静かだった。】

② 私は 静かに 眠って いる 妹を 見つめた。【眠っている妹が静かだった。】

(2) 次の①、②の——線部の文節と文節の関係に当てはまるものを、次のアからオの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主・述の関係	イ 修飾・被修飾の関係	ウ 接続の関係
エ 並立の関係	オ 補助の関係	

① 私は、姉が作った ケーキを 食べた。 ()

② 地球は、青くて 美しい 星だ。 ()

(3) 次の①から③の——線部の呼応の副詞に対応する言葉を () に書きなさい。

① まるで、写真の ()。

② たとえ、月日が流れ ()、この出来事を、決して忘れない。

③ なぜ、失敗したの ()、よく考えてみよう。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

学習したことを確かめよう

年 組

◆解説◆

「重箱読み」は、音読み＋訓読み、「湯桶読み」は、訓読み＋音読み
の漢字で構成されています。

一 次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の①から③の熟語を、「ア 重箱読み」と「イ 湯桶読み」に分け、それぞれ記号を答えなさい。

① 幕内 (**ア**) ② 台所 (**ア**) ③ 手本 (**イ**)

(2) 次の①から③の熟語の熟字訓を書きなさい。

① 今朝 (**けさ**) ② セタ (**たなばた**) ③ 小豆 (**あずき**)

二 次のアからカの言葉を「和語」「漢語」「外来語」「混種語」に分け、それぞれ記号で答えなさい。

ア てんぷら イ メディア ウ 言葉 エ ぼく オ 花火大会 カ 歩く

和語	(ウ、カ)	漢語	(エ)
外来語	(ア、イ)	混種語	(オ)

◆解説◆

和語は、もともと日本で使われていた言葉で、平仮名で書かれたり、訓読みで表されたりします。漢語には、古くに中国から入ってきた言葉や日本で作られた言葉があります。「ぼく」(僕)のように、平仮名で書かれていても音読みする語であれば、漢語です。外来語は、中国以外の外国から入ってきた言葉で、片仮名で書くものが多くあります。外来語の意識が薄くなっているものは、平仮名や漢字で書かれる場合もあります。混種語は、和語、漢語、外来語が組み合わさってできた言葉です。

私は 静かに 眠っている 妹を見つめた。

① 私は 静かに、眠っている 妹を見つめた。【私が静かだった。】

② 私は、静かに 眠っている 妹を見つめた。【眠っている妹が静かだった。】

◆解説◆

下の文節がすぐ上の文節の意味を補う文節どうしの関係を「補助の関係」と言います。(例) 歩いて いる

はまるものを、次のアからオの

ア 主・述の関係	イ 修飾・被修飾の関係	ウ 接続の関係
エ 並立の関係	オ 補助の関係	

① 私は、姉が作った ケーキを 食べた。 (**ア**)

② 地球は、青くて 美しい 星だ。 (**エ**)

(3) 次の①から③の——線部の呼応の副詞に対応する言葉を () に書きなさい。

① まるで、写真の (**ようだ**)。

② たとえ、月日が流れ (**ても**)、この出来事を、決して忘れない。

③ なぜ、失敗したの (**か**)、よく考えてみよう。